

小中一貫教育で児童生徒の人間力を育むため、 Google for Education を多様なシーンで活用する 興本扇学園(足立区)の ICT 教育に注目

東京都足立区の小中一貫教育校、興本扇学園は、区内の ICT 教育モデル校となり、早くから一定数のパソコンを導入して教育 ICT の研究に取り組んできました。そこに GIGA スクール構想が公表され、区ではソリューションとして Google for Education を選定。興本扇学園は 1 人 1 台の Chromebook と Google Workspace for Education(以下、Google Workspace)を他校に先駆けて導入し、活用を進めてきました。



興本扇学園 足立区立
興本小学校、足立区立扇中学校

東京都足立区扇 3 丁目 22 - 1

<https://sites.google.com/ict.adachi.ed.jp/okimotoougi/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

2006 年、足立区立興本小学校・扇中学校を、同区初の小中一貫教育校として開設。校舎が 2 つあり、東校舎で 1 年生から 4 年生、西校舎で 5 年生から 9 年生(中学 3 年生)が学ぶ。I 期(1 ~ 4 年)、II 期(5 ~ 7 年)、III 期(8 ~ 9 年)の 3 つに区切り、小学校 6 年・中学校 3 年の 9 年間を通じて系統立てた一貫教育により、児童生徒の人間力(生きる力)の育成に取り組んでいる。2009 年、国際ユネスコ スクールに認定。児童数 382 人、生徒数 202 人、教員数は 33 人。



Chromebook

632

台
(生徒・教員含め)+ 予備機

01

学習活動の幅を広げる ソリューションとして導入

足立区では、「ICT 教育推進の基本方針」を策定して教育における活用の取り組みを進めています。大きな柱は「学力の定着」「課題を解決していく力の育成」「場所を選ばない学びの実現」の 3 本。このうち 3 つ目についてはすでに実現されていると、教育委員会の西野 厚氏は語ります。

同区は GIGA スクール構想以前の 2019 年から、学校への ICT 環境整備を始めていました。この当時は他社製端末を児童向けに原則各校 46 台、モデル校だった興本扇学園には 80 台程度配布していましたが、その後 GIGA スクール構想が発表され、1 人 1 台の端末選びに着手。検討の結果、2020 年 4 月に Google for Education を選定しました。

「大阪で導入校を視察し、Chromebook と Google Workspace はクラウドをベースに活用できるソリューションであることを知っ

足立区教育委員会
学校 ICT 推進課



統括指導主事
西野 厚氏

興本扇学園



校長
稲葉 守朗氏

て、学習活動の幅が広がると考えました。加えて、Kickstart Program や教員の ICT レベルに応じたメニューが組みられるなど研修の手厚いサポートがある点もポイントになりました」と、西野氏は選定時を振り返ります。

興本扇学園は Google for Education 活用においてもモデル校となり、先行導入して研究を進めてきました。Google のソリューションが選ばれたことを聞き、興本扇学園の教員たちはそれまで他社製 OS の端末やアプリを使っていたことから不安を感

じつつも、クラウド上での共同編集や Chromebook の起動の速さなどを魅力に感じたと同様に話します。

「使い方にすぐ慣れることができるか、といった不安もありましたが、教育委員会から『とにかく使ってみてください』と言われました。利用を進める中、共同編集をはじめ多岐にわたり活用できる点やデータを紛失することがない点、端末の使い勝手に優れている点を教員たちは実感したようです」と、校長の稲葉 守朗氏は述懐します。

02

授業や学校行事で 多彩な利活用を進める

興本扇学園の小中学校それぞれで、全てに言及するのは難しいほど多彩なシーンに活用されてきました。ICT 推進リーダーを務める望月 康正氏が、さまざまな事例を紹介してくれました。

「例えば授業の導入部分の資料配布として、小学 3 年生の授業では Google Classroom に小売店内を撮影した 360 度動画のリンクを貼り付け、コロナ禍で実際に店を訪れることができない時期に店内の様子を疑似体験しました。5 年生の理科では教科書内の画像を Google Jamboard に貼り付け、意見を書き込みながら情報交換を行いました」

まだキーボードからの文字入力ができない小学 1・2 年生は、Google Jamboard の画面上で物語のシーンを描いた絵をストーリーに沿って並べたり、図形の並べ替えをしたりと、直感的に使える方法で活用しています。

「Google for Education を授業で活用することで、他の人の意見を見て自分の意見を考えたり、友達同士で質問し合ったり、自分の学習の足跡をまとめて振り返ったりと、学習の広がりにつながっていることを強く感じます」(望月氏)

興本扇学園でクラス担任を 8 年務め、2023 年度から副校長

興本扇学園



主任教諭
望月 康正 氏

の立場にある新井 真弓氏は、家庭科や体育の授業で作品や活動の様子を写真に撮り、それを評価にも活かしてきました。また、小出 晴斗氏は、7 年生(中学 1 年生)担任時、数学の授業で生徒が作図問題を作成し、その問題とヒントを Google Jamboard でみんなに共有するという授業を行いました。授業以外でも、校外活動の自然教室のしおり作成で大枠の型だけを作り、役割の割り当てやバスの座席表作成などは生徒たちの共同編集に任せたといいます。

Google Meet の活用事例もあります。「1 年生が区内の他の小学校と学習交流を行う際、Google スライドで作ったクイズを Google Meet で出題し合い、交流しました。また 2 年生の生活科で、住んでいる町について調べたことを都内の檜原村の小学



生に発表するときも Google Meet を使いました。あちらの学校の様子が映し出され、相手の表情を見ながらやり取りができ、質

問を受けてその場で答えるというリアルタイムの交流が実現しました」(望月氏)



03

学習効率や意欲の向上、 “伝える力”にも目に見える効果

ここまで3年半ほど Google for Education 活用に取り組んできた中で、学習効率の面では「授業での資料配布や答案回収の時間が短くなり、その時間を学習に充てられるようになりました」と望月氏。子どもたちの変化としては、他の児童の意見をすぐに確認でき、より気軽に他の人の思考とつながれるようになったことが最も大きな変化だと話してくれました。

数値面での変化について、校長の稲葉氏は「ICT の導入に加え、教員たちの授業の工夫・改善もありますが、以前と比べ、小中学校とも区内他校と比較したテスト成績が明らかに上がっているのは間違いありません」と語ります。

さらに、現在は、1年生から9年生(中学3年生)まで「伝える」ことの実践に力を入れているといいます。

「9 学年の児童生徒がせっかく同じ場にいるのだから、それを生かして伝える力を高められるよう、他学年に自分たちの学校行事などの体験を紹介する取り組みを実施しています。チームでスライドを作り、クイズを盛り込むなどの工夫も加えて、伝わりやすいプレゼンを学んでいます」

都立高校の面接試験の結果から、Chromebook で自らの思考や判断を手軽に表現できるようになったことが要因で、生徒のプレゼンテーション能力が上がったと感じている、と話してくれました。

また、ICT 活用による子どもたちの心の変化について、新井氏は貴重なエピソードを提供してくれました。

「授業で心に残ったことについて、家に帰って Chromebook で調べたり、記録したりする子が何人もいます。生き方につながる何かを教室から持ち帰り、自分なりに学びを続ける。そういう姿を見られるようになったのも、効果のひとつと感じています」



04

教員のさまざまな業務にも 効率化のメリット

対して、教員業務における効率化の観点では次のような声が集まりました。

「これまではより良い授業を目指して研究を行う際、他の教員が行う授業を見学し、意見をメモに手書きしていました。いまは Google フォームなどで意見を共有できるようになり、効率化を体感しています」(望月氏)

「授業に関するデータの保管場所として Google ドライブを使い、フォルダで整理して、必要なものをすぐ閲覧できるようになりました。また、生徒にデータを入力してもらうシートを Google スプレッドシートで作り、Google Classroom で手軽に受け渡すことが可能になり、作業の手間はかなり軽減されています」(小出氏)

「教員が子どもの状況を把握しやすくなったことが大きいですね。管理職としては、いますべてのクラスの Google Classroom に入れるので子どもたちの様子がとてもよくわかりますし、大きなメリットを感じています」(新井氏)

これから Google for Education を活用して取り組んでみたいことについて、小出氏は「生成 AI に関心があります。AI の適切な活用方法を子どもたちと一緒に考えながら、授業で使ってみたいと思っています」と語ります。一方、望月氏は Fig Jam に興味を持っているそうで、「新しいもの、ワクワクしそうなものがたくさんあります。それを子どもたちに触れさせ、反応を見た上で、

使い方のアイデアが生まれてくるのが楽しみです」と話してくれました。その他にも、Google for Education を活用した将来の展望については、各教員から「時間と労力をかけて作成した教材資料を、自治体に関わらず共有したりできるよう、都内全体で同じ端末を利用できる環境になると良い」といった意見が多く見られました。

最後に稲葉氏は、同学園のこれまでの取り組みと今後に向けた展望を校長の立場から語ります。

「Google for Education の活用で授業のスタイルが変わり、真の意味で主体的、協働的な学びが実現しつつあります。いま、授業で ICT を使っているとき子どもたちは熱を帯び、輝いていると感じます。これからも教育の質を維持・向上させながら 9 年間で子どもたちの人間力を育て、自立して卒業させることに主眼を置き、その中で ICT をさらに活用できる方法を見出していきます」



取材日: 2023 年 11 月 22 日

Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える教育テクノロジーソリューションです。

| | |
|---|---|
| Google for Education の特徴 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 簡単操作 | <input checked="" type="checkbox"/> 手ごころな価格 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 高い汎用性 | <input checked="" type="checkbox"/> 高い効果 |

- chromebook**
1 教育向けに設計され、授業向けに開発された軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン
- Google Classroom**
2 教師と児童生徒向けに構築された学習プラットフォーム
- Google Workspace for Education**
3 時間や場所を問わず学校全体で共同利用できるクラウド型教育プラットフォーム
- Chrome Education Upgrade**
4 1 つの端末から同じドメインのすべての Chromebook を設定
シンプルなクラウド型管理コンソール

